

# パラグアイから学ぶ ～遠くて近い国～

氏名： 福嶋 綾子

学校名：高知県四万十町立窪川小学校

担当教科： 音楽

実践教科： 音楽 社会

時間数： 6

対象学年： 小学 6年生 人数： 33名

## 【実施概要】

### 【1】単元のテーマ・目標：パラグアイから学ぶ ～遠くて近い国～

- 外国にはさまざまな生活、文化や音楽があることを理解する。
- 外国の人々の生活の様子に関心を持ち、外国への関心や興味を高める。
- 日本人のパラグアイへの移住の歴史を知り、身近な問題として理解する。

【2】 単元の評価 規準例	音楽	(ア) 関心・意欲・態度	想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏のよさに気づいて聴く学習に進んで取り組もうとしている。
		(エ) 鑑賞の能力	楽曲の気分や楽器の音色など音楽を形づくっている要素のかかりから、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏のよさに気づいて聴いている。
	社会	(ア) 社会的事象への関心・意欲・態度	我が国とつながりが深い国の人々の生活の様子に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。
		(イ) 社会的な思考・判断・表現	異なる文化や習慣を理解することの大切さについて、自分なりに考えている。
		(ウ) 観察・資料活用の技能	パンフレットや写真、インタビューなど様々な資料を活用し、必要な資料を集め、読み取っている。
		(エ) 社会的な事象についての知識・理解	我が国とつながりが深い国の人々の生活の様子を理解している。
【3】 単元設定の理由	子どもたちにとって、南アメリカ大陸のパラグアイは、遠いと感じないほどなじみのない国である。自分がパラグアイに行き、取材した教材を利用し、パラグアイという国について知識を深め、外国への興味・関心を高めるだけでなく、世界にはいろいろな文化があることを、音楽を通じて感じさせたい。また、町の移住の歴史を知り、身近にいるパラグアイ移住の体験者にインタビューし、海外の生活や人々についての話だけでなく、移住の体験を聞くことで、遠い国と思っていたパラグアイのことを身近に感じてほしいと願い、この単元を設定した。		
✓ 児童観 ✓ 教材観 ✓ 指導観			

中山間部にある人口1万7千人あまりの四万十町に住む本学級の児童は、日常生活で外国の人々と触れ合う機会が少ない。実際には、本校にもフィリピンや中国出身の母親を持つ子どもたちもいる。しかしながら、ほとんどの子どもたちにとって一番身近に外国を感じる存在はアメリカ合衆国出身のALTの先生ぐらいかもしれない。

学習活動においては、総合的な学習の時間に、地域おこしの活動を主体的に行ったり、外国語活動の授業では、一人ひとりがそれぞれ国を選び、調べて観光のアピールをしたりするなど、ほとんどの児童がどのような授業にも積極的に取り組むことができる。音楽の授業では、リコーダーや歌唱などの音楽活動にも意欲的に取り組み、鑑賞活動では、楽曲の雰囲気や楽器の音色や音楽の要素をよく聴き取り、自分の言葉で表現することができる児童が多い。しかしながら、集中が長い時間続かず、支援が必要な児童も数名いる。



音楽の授業での主な教材は、パラグアイで現地録画した民族楽器アルパの演奏とカテウラ地区のオーケストラの演奏である。アルパは4年生の鑑賞教材で取り上げられているハーブをやや小型にしたような楽器である。この授業で聴かせる「Cascada」という曲は自然の滝の様子を表している美しい曲である。もう一つは、ゴミ捨て場の一角のカテウラ地区でゴミを利用した楽器を子どもたちが演奏し、世界各地で演奏会を行っているオーケストラを現地で撮影した動画である。世界的にも有名なラテン音楽の名曲である「リベルタンゴ」の演奏は、ゴミをリサイクルして作った楽器の奇抜なデザインとともにとても味のある。現地で撮影した動画は、パラグアイのことをより身近に感じるためにはとても効果的な教材である。



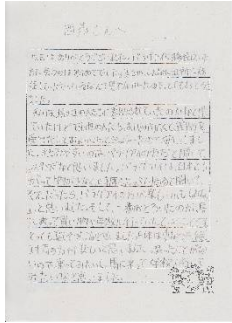
次に、社会の授業で主に取り上げる「日本人の海外移住の歴史」は、アメリカ合衆国での戦争中の隔離政策や中国東北部、満州への移住のことは取り上げられることがあるが、子どもたちには興味や関心を持ちにくい題材である。しかしながら、四万十町からは多くの人々が移住した歴史がある。実際にパラグアイに行き、取材した教材を利用し、パラグアイという国について知識を深め、外国への興味・関心を高める。そして、資料館のパスポートの資料を利用したり、紙芝居を使ったりすることで海外移住について理解を深める。さらに、身近にいるパラグアイ移住の体験者にインタビューし、海外での生活の様子やパラグアイの人々について話を聞くことは、遠いパラグアイと自分たちとをつなげて考えるきっかけになるとも価値のある教材である。

このように本単元では、現地取材した音楽文化を取り上げて、音楽による異文化理解を目指すとともに、自分たちの住む地域、四万十町から多くの人々がパラグアイに移住した歴史を知り、パラグアイ移住体験者から現地での生活の様子を聞くことにより、国際理解を深めるだけでなく、町の歴史とのつながりも学ぶことができると考える。

#### 【4】展開計画（全6時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 社会	パラグアイ日本語学校に本を送ろう 南アメリカ大陸にあるパラグアイという国の位置を	○世界地図を使って、パラグアイの位置を確認する。 ○写真資料を使って、パラグアイに日本語学校があることを知る。	【資料1】日本語学校の写真 【資料2】手紙シート 【資料3】高知新聞記

	<p>知り、日本語学校に本を送るときに添える手紙を書くことによって、日本から移住した人たちの子孫が日本語を学ぶ学校があることを理解する。</p> <p>*パラグアイに行く前の事前学習として行った。</p>	<p>○アマンバイ日本語学校に手紙を書く。</p> <p>*図書委員が代表して、高知新聞社の取材を受けた。</p>		<p>事</p>
2 社会	<p>パラグアイから学ぶ① ～遠くて近い国～</p> <p>パラグアイの国について写真や実物を見て知り、世界には様々な文化や習慣をもった国があることを理解する。</p>	<p>○パラグアイまでの距離を感じる。</p> <p>○パラグアイについて知る。</p> <p>地形や産業を知る。</p> <p>食生活について知る。</p> <p>手工芸について知る。</p>		<p>【資料4】パラグアイのパワーポイント資料</p>
3 音楽 本時	<p>パラグアイから学ぶ② ～遠くて近い国～</p> <p>パラグアイの音楽を鑑賞することによって、それぞれの国にそれぞれの音楽があることを理解する。</p> <p>災害の復興やパラグアイのカテウラ地区のオーケストラの活躍を知り、音楽の力を考える。</p>	<p>○5曲の世界の音楽を聴き、その中からパラグアイの音楽を選ぶ。</p> <p>○アルパの演奏を鑑賞する。</p> <p>○「音楽ができること」を学習する。</p> <p>○カテウラ地区のオーケストラの活動について知る。</p> <p>○「音楽の力」について考える。</p>		<p>【資料5】パラグアイの民族楽器アルパ</p> <p>【資料6】カテウラ地区の写真</p> <p>【資料7】カテウラオーケストラの演奏</p> <p>【資料8】音楽6年教科書27～29ページ</p>
4 社会	<p>パラグアイから学ぶ③ ～遠くて近い国～</p> <p>海外へ移住した歴史を学び、現在の移住地の暮らしや日本語学校の様子を知り、実際に移住した人への質問を考えることによって、自分なりに外国での生活を想像し、考えを深める。</p>	<p>○海外へ移住した日本人のことを知る。</p> <p>○パラグアイへ移住した人々の当時の暮らしや現在の様子、日本語学校の様子を知る。</p> <p>○移住を経験した人が身近にいることを知り、インタビューの内容を考える。</p>		<p>【資料9】紙芝居「海外へ移住した人々」</p> <p>【資料10】資料館パスポート</p> <p>【資料11】ラパス日本人会の資料館の写真</p> <p>【資料12】日本語学校のクラスのルール</p> <p>【資料13】パラグアイのスーパーマーケットの動画</p>

			【資料14】ワークシート
5 社会	<p>パラグアイから学ぶ④ ～遠くて近い国～</p> <p>パラグアイへの移住についてインタビューを行い、海外へ移住した状況や、海外の生活の様子を当事者に聞くことによって、移住の歴史を理解し、異文化理解を深め、外国への興味・関心を高める。</p> 	<p>○前時に考えた質問をする。</p> <p>○学校のすぐ近くでクリーニング屋を営む ○○○○さんにインタビューした。(6歳でパラグアイに移住し、アマンバイ日語学校にも通い、結婚してブラジルで生活し、25年前に日本に帰国した経歴の持ち主。)</p> <p>○質問内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移住したときの気持ちはどんな気持ちでしたか。</li> <li>・どうして移住したのですか。</li> <li>・どうやって言葉を覚えたのですか。</li> <li>・どんな食べ物を食べていましたか。</li> <li>・向こうでの生活の様子を教えてください。</li> <li>・移住した国の人たちに差別はされませんでしたか。</li> <li>・日本とパラグアイ、どちらがいいですか。</li> </ul>	【資料15】質問内容
6 社会	<p>パラグアイから学ぶ⑤ ～遠くて近い国～</p> <p>西森さんにお礼と感想を伝えるための手紙を書くことで、自分の学んだことをまとめ、パラグアイなど中南米への移住の歴史を町の歴史として、認識する。</p>	<p>○西森さんにお礼、感想の手紙を書く。</p>  	【資料16】ワークシート 【資料17】アンケート

【5】本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	<p>○「パラグアイから学ぶ」ことを知る。</p> <p>○本時のねらいを確認する。</p>	<p>・「パラグアイから学ぶ」の授業の延長であることを確認する。</p>	
展開 (35分)	<p>○パラグアイの音楽を選ぶ。</p> <p>○曲の民族音楽を聴き、パラグアイの音楽を選ぶ。</p>	<p>・どの曲が流れているかをわかるように聴かせる。</p>	○民族音楽 CD

<p>①シタールによる「ラーガ ジョグ ショワル」(インド)</p> <p>②アルパによる「カスカーダ」(パ ラグアイ)</p> <p>③カヤグムによる「チンヤンジョ」 (朝鮮半島)</p> <p>④箏曲「六段の調」(日本)</p> <p>⑤ギターによる「禁じられた遊び」 (スペイン)</p> <p>○それぞれの国の音楽の特徴を聴き 取る。</p> <p>○アルパの演奏を視聴する。</p> <p>○音楽には力があることを知る。 日本大震災の復興のため、音楽が とても重要な役割を果たしたこと を知る。</p> <p>○カテウラ地区の音楽活動について 知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カテウラ地区について知る</li> <li>・リサイクルした楽器を使っている ことを知る。</li> </ul> <p>○カテウラオーケストラの演奏を鑑 賞する。</p> <p>○音楽にできることを考えてみる。</p> <p><b>まとめ</b> (3分)</p> <p>○ねらいを達成することができた か、確認する。</p> <p>○音楽の力について、意見を交流す る。</p>	<p>・聞き終わった後、パラグアイの 音楽を確認する。</p> <p>・パラグアイで実際に録画した動 画であることを紹介する。</p> <p>・教科書27～29ページを見る ように指示する。</p> <p>・教科書60・61ページの「花 は咲く」が復興ソングであるこ とを知らせる。</p> <p>・ゴミ捨て場の一角にあるカテウ ラ地区で音楽活動を行っている ことに対し、マイナスイメージ が先行しないように留意する。</p>	<p>○楽器の写真 クラシックギター カヤグム、アルパ</p> <p>○動画(アルパ演奏)</p> <p>○カテウラ地区の写 真</p> <p>○ゴミをリサイクル して作られた楽器 の写真</p> <p>○カテウラ・オーケ ストラの演奏の動 画</p> <p>○付箋を配り、自分の考えを付箋 に書かせる。</p> <p>○班ごとにシートに付箋を貼り、 意見を交流する。</p>
---	---	--

あなたの考える音楽の力は何でしょうか



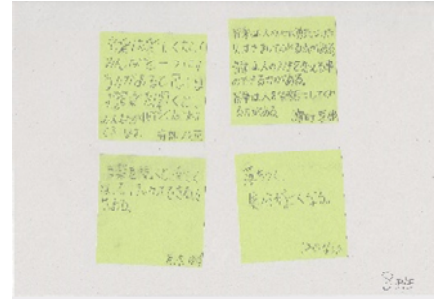
【授業実践の様子】		
		
<p>「パラグアイから学ぶ」の授業の続きであることを確認している。</p>	<p>パラグアイの音楽を選ぶために、耳を澄ませている。</p>	<p>パラグアイの音楽を選んで手を挙げています。</p>
		
<p>音楽をかけながら、それぞれの曲を演奏している楽器を紹介し、パラグアイの音楽を確認している。</p>	<p>実際に現地の国立音楽院で撮影した動画を用いて鑑賞している。</p>	<p>カテウラ地区がどのような場所かを写真で紹介している。</p>
<p>あなたの考える「音楽の力」は何でしょうか。</p> <p>【子どもたちの意見】</p> <p>○私が思う音楽の力は落ち込んでいる時や悲しい時に、楽しい音楽を聞くと立ち直れたりするし、楽しい時に聞くと、もっとHAPPYな気分になるので、私は音楽はどんな時でも聞いたら笑顔になれる力があるかなと思いました。自分だけじゃなくて友達と一緒に楽しく、明るい気分になって友達と同じ歌と一緒に歌えば、歌も心も一つになれる力があると思いました。</p> <p>○音楽は人の心を勇気づけたり、励ましてくれる力がある。音楽は人の人生を変えることのできる力がある。音楽は人を笑顔にしてくれる力がある。</p> <p>○音楽は楽しくなってみんなを一つにする力があると思います。そして、音楽を聞くとみんなが仲良くなれると思います。</p> <p>○音楽を聞くと楽しくなって、リラックスできる力がある。</p> <p>○音楽を聴くことによって、勇気づけられるし、笑顔にもなれる。</p> <p>○音楽を聴くと歌いたくなる人もいる。</p> <p>○歌詞やメロディーによって、伝わってくる気持ちがあります。作った人から伝わる気持ちがあります。音楽は人生や気持ちが変わります。今の世界には必要なものです。</p> <p>○人を和ませたり、楽しませたりすること（力）が音楽にはある。人を一つにする力がある。</p> <p>○音楽を聴いていると楽しいおだやかな気持ちになります。演奏している人もいい気持ちになっていいと思います。（動画で見るより、行って見た方がいいと思ったけど、動画で見るのもいいと思いました。）</p>		

○音楽を聴くと勇気が出る曲がある。音楽を聴くと楽しくなる。音楽を弾く（演奏する）と人を楽しませたくなる。いやなことをする（かたづけなど）をするときは音楽をかけるとなぜか早く終わる。

○クラスが一つになる力

○みんなで歌えば、一つになれる。

○音楽には聴くと落ちついたり、楽しくなるし、元気もでる力があると思います。歌を歌うときや楽器をひくときもあたたかい気持ちになります。私達はいつも音楽に囲まれていると思います。



班で付箋をまとめました。

## 【6】 本時の振り返り

現地で実際に目の前で聴いた民族楽器の演奏の動画を用いることができ、「世界の音楽」を聴いて味わう鑑賞活動を深めることができた。音楽の授業でパラグアイの研修を生かすため、「世界の音楽を知る」で終わらせず、音楽についての深い学びにつなげることはできないかと考えて、「音楽にできること」という教材と結び付けた授業を試みた。貧困などの厳しい環境でがんばっている人がいること、それぞれの国にそれぞれの歴史にもとづいた文化や音楽があることは感じ取らせることができた。

また、子どもたちから出た意見からは、改めて「音楽の力」、音楽のすばらしさを感じることができ、それぞれの子どもたちが「音楽」をどのようにとらえているかが伝わってきて、とても意義深い授業になった。

カテウラ地区のオーケストラの活動を伝えたい思いが強く、学習内容が多くなってしまったので、単元の流れをさらに工夫する必要がある。また、発展途上国の様子をマイナスイメージが先行しないように伝えられたか、子どもたちが自分自身の問題として考えられたか、などが課題として残った。そのため、その後の海外への移住の歴史の授業では、その点を意識して授業をするように心がけた。

## 【7】 単元を通じた児童生徒の反応/変化

単元を通して、児童の反応や変化として挙げられるのは、次の2つである。

第一に、子どもたちの外国への興味や関心が高まったことである。外国語活動でも外国について調べ、観光のアピールを行うなどの活動もしているので、この単元の成果ばかりではないが、「他の国の暮らしに興味を持つことができた」という感想も多く、「パラグアイの人たちのいいことをまねして生活していきたい」という記述もあった。アンケート項目2「外国に行きたいと思いますか」では、83%の子どもたちが肯定的に答えている。否定的な子どもも理由として「地元（日本）が好きだから」と答えているので、項目を移住するかどうかと受け取って答えている可能性や、否定的に答えている子ども「〇〇の国に△△を見るために行きたい」などと記述していることを考えるとほとんどの子どもたちが外国に対して行ってみたいと考えている。

また、外国語の学習への意欲の向上も見られ、「外国語を学び、外国に出てみたい」「他の国の言葉もたくさんおぼえたい」、「英語やスペイン語などを勉強してみたい」「大人になって外国に行って、たくさんの外国人とたくさん話せるように授業で英語をがんばりたいなと思いました。」「日本に外国人が来た時に、英語が話せたらその国の文化や暮らしもわかるので、その人に聞いた話と、今日聞いた話を比べたりしたいです。」という記述もあった。

第二に、四万十町から中南米に移住した人々のことを考えることができ始めたことである。

夏休みのパラグアイ研修の前に、子どもたちにアマンバイ日本語学校に本を送る取り組みを伝え、日

本語学校の子どもたちに手紙を書いた。その際には、ただ単に「外国の日本語を勉強している学校へ本を送る」という認識の子どもが多いと手紙の内容から感じられた。しかし、単元終了時のアンケート項目3「パラグアイやブラジルなど海外に移民した人々のことがわかりましたか」アンケート項目4「四万十町から多くの方がパラグアイやブラジルなどの中南米の国に移民したことがわかりましたか」では全員が肯定的回答で、「5. とてもそう思う」に限ると項目3は89.6%、項目4は96.5%がと回答し、四万十町から中南米に移住した人々がいることを理解させる目標はほぼ達成できた。

授業後の感想では「パラグアイに行ってみよう」という回答も多く、ただ歴史を知ったというだけでなく、理由として「四万十町の人たちもいるし・・・」「他の日本人の様子を知ってみたいから」と、自分事として考えている記述もあった。「日本語学校に本を送りたい。本でたくさん勉強してほしい。」「パラグアイに行っていた人の気持ちや思いをたくさんの人に伝えて、昔は（海外へ）移住していた人がいたことを未来の人や自分が知っている人に伝えていきたい。」「まだ知らない人に伝えたい」「学んだことをお父さんやお母さんに話し、これからの私たちの勉強に生かしたい」という感想もあり、四万十町で中南米への移民した歴史があることが周知され、日本語学校に本を送る取り組みなどが今後に広がっていくことを期待している。

#### 【単元を通し変容した児童の態度や学習意欲】

単元を長期間にわたり行ったため、この授業だけの成果とは言いがたいが、外国に興味を持ち、より主体的に学ぼうとする子どもがいることは、次のようなアンケートの記述からも感じられる。

○近くにパラグアイに移住していた人がいると知らなくて、すぐ近くにいて驚きました。パラグアイ以外の国のことでどんな暮らしなのかとか調べたりしたいです。

○パラグアイ以外にも他の国へ移住した人もいると思うので、また体験したことを聞きたいです。いつか、海外に行ける時が来たらいいなと思いました。

○この学習で学んだことを全教科の中で外国に関することが出てきたときに生かしたいと思いました。

○自分の知らないことがまだまだたくさんあって、もっと知りたいと思った。

○まだ、知らない国も沢山いいなと思うことがあるので、調べたりしてみたいなと思いました。

#### 【途上国・異文化への意識の変容】

（授業前）夏休みにパラグアイに行くことを授業で話した。同じ南アメリカ大陸にあるブラジルについてサッカーの選手やチームのことで興味を持つ子が数人いた。授業後に世界地図の前でいろいろな国について語る子どももいたが、身近なことと感ぜないのかあまり興味のない子どもが大多数であった。最後のアンケートにも「ぼくは前はあまり外国に興味はなかった」という記述がある。また、移住体験者への質問では「差別がなかったか」という質問が出たり、最後のアンケートにも「最初は差別とか大変なことがあるんじゃないかと思っていただけ」という記述があったりして、外国に対してやや悲観的に考える子が多かった。

（授業後）9月に第2時の授業を行った後、10月に学級担任が行った外国語活動の研究授業では、それぞれの子どもが国や地域を選び、その国について調べ、それぞれが模造紙に写真や調べたことを書いてパネルのようにし、それぞれの国をアピールしていた。子どもたちの選んだ国は、よく耳にするイギリスやアメリカなどの先進国もあったが、モロッコなどのアフリカ大陸の国があったり、ハンガリーなどの知名度の低い国もあったりと多岐にわたっていた。

特に、移住体験者の話を聞いた後の変容が顕著であった。「日本とパラグアイのどちらがいいか」という子どもたちの問いに、体験者の方が「それぞれの国にそれぞれの良さがある。」「パラグアイでの



暮らしは物がなかったけど、ゆったりと心の余裕があった。日本は物がいっぱいあるけれど、時間に追われて、ゆとりがない。だから、どちらがいいとは言えない。」と答えられた。子どもたちの予想とは違う答えに驚く子どもも多かった。ある子は「私は現地の人たちに差別されていたのかなと思っていたけど現地の人たちは心が広くて差別を受けたことはなかったとおっしゃっていたので、安心しました。住みやすいのはパラグアイの方だと聞いて意外だなと思いました。」と体験者への手紙に書いている

授業後の感想やアンケートには、「この勉強をしてアメリカやフランスなどの大きな国以外の国でも魅力はたくさんあるということがわかりました。」「パラグアイの人々ともかかわりたいと思った。」「自分と同じ国の人じゃなくても快く広い心を持って接したいと思いました。周りの人とも困った時はお互い様という気持ちで接したいと思いました。」「(外国の) 人に興味を持ちました。理由は国によって人と人との接し方が違うだろうからいろんな国に行っているいろんな人と接してみたいと思ったからです。」「外国から来た人に親切にしてあげたいです。たぶん言葉は通じないけど気持ちでその人のことを考えてあげたいです。もちろん日本の人でも。」などの回答があった。

### 【8】自己評価

1. 苦勞した点	<p>○小学校で音楽専科という立場で、最初は学級担任に授業の意図が十分に伝わらず、やや消極的な単元計画を考えた。授業を行っていく中で、次第に理解され、協力も得られ、子どもたちへの言葉かけや事前に人権学習をするなど、最終的には地域の方へのインタビューする時間も設定することができ、発展的な学習を行うことができた。</p> <p>○校内研修会で時間を確保し、パラグアイでの研修についてプレゼンテーションを行ったり、授業の内容について文書を配付したりして、学校内で他の教職員への理解を図ることも授業をスムーズに行うために役立った。</p>
2. 改善点	<p>○発展途上国の状態、カテウラ地区のゴミや貧困の問題などを子どもたちが自分自身の問題として、考えることができたかという点では、この単元計画の流れでは難しかった。ゴミ捨て場のカテウラ地区のオーケストラ活動は、とても良い教材であるので、これからパラグアイについて授業を行うときには、活用していきたい。</p> <p>○今回は授業を行う中で単元の学習内容が発展していったので、次回行う際には、あらかじめ移住経験の方から話を聞くことを前提とし単元計画を考えていきたい。</p>
3. 成果が出た点	<p>○教師自身が現地で体験したことや感じたことを語ることで、パラグアイへの研修で撮影した写真や動画などを見ることによって、遠い国パラグアイを身近に感じさせることができた。</p> <p>○子どもたちの身近にいる人がパラグアイに移住し、帰国していることを知り、遠いと思っていたパラグアイなどの中南米がとても身近な存在になり、海外へ移住した歴史を理解でき、また外国への興味や関心を高めることができた。</p>
4. 備考(授業者による自由記述)	<p>○パラグアイでの日本人の移住の歴史が、現在町に住んでいる方の人生とつながっていることが聞き取りを通じて子どもたちにも伝わったと思う。これからも高知県の中南米への移住の歴史について学び続け、現在も移住して海外で暮らしている人々の存在を子どもたちに伝えていきたい。</p> <p>○3年から5年の児童には、パラグアイについて、この単元の2時間目にあたる授業のみを行った。「世界の音楽」の異文化理解の授業の充実を図ることはもちろん、今後も引き続き、「音楽の力」や「町の移住の歴史」の授業を継続して行っていきたい。</p>

【添付資料】:

【資料1】日本語学校の様子を紹介する写真



【資料2】手紙シート



【資料3】新聞記事(高知新聞 平成29年9月30日(土))



【資料4】パラグアイを紹介するパワーポイント資料

1 人権教育研修  
四万十町立富田小学校  
権崎裕子  
2017年8月20日

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

【資料5】パラグアイの民族楽器



【資料6】カテウラ地区

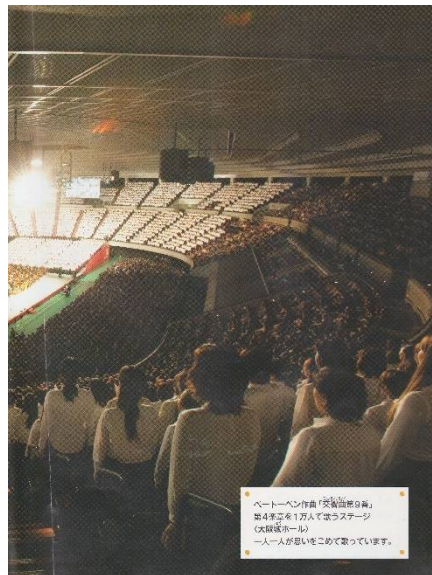
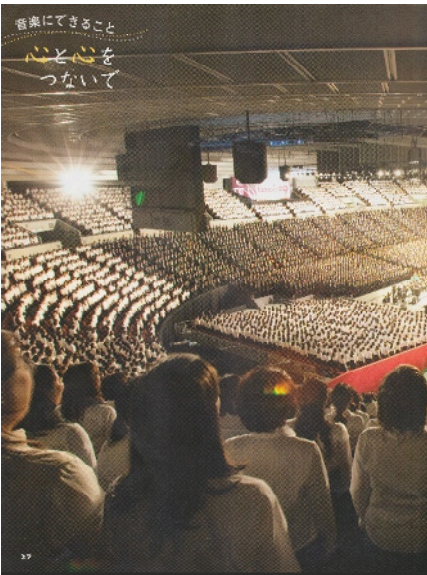




【資料7】カテウラ地区のオーケストラの活動



【資料8】6年生音楽教科書「音楽のおくりもの」(教育出版)27～29ページ



音楽をとおしてさまざまな 取り組みが行われています

兵庫県にある「フォーキッズオーケストラ」は、小・中・高校生が演奏者によって構成されています。このオーケストラは、1988年の発祥、長崎県立大学の文化継承のシンボルとしても活動してきました。

▲2007年度、高野市立高野中学校で演奏する「神戸県立心中心」

1999年から高野市の市民音楽堂に演奏会を定期的に開催し、約200人の市民の参加を誇る「高野市市民音楽堂」に演奏会を開催しています。

▲2011年度、高野市市民音楽堂で演奏する「高野市市民音楽堂」

2011年度、高野市市民音楽堂、音楽堂にある高野市市民音楽堂に「音楽の力による感動センター」を開設し、高野市の人々などに音楽を伝える活動を行っています。

▲高野市市民音楽堂で演奏する「高野市市民音楽堂」

AWAのまちづくりセンターで演奏する「高野市市民音楽堂」

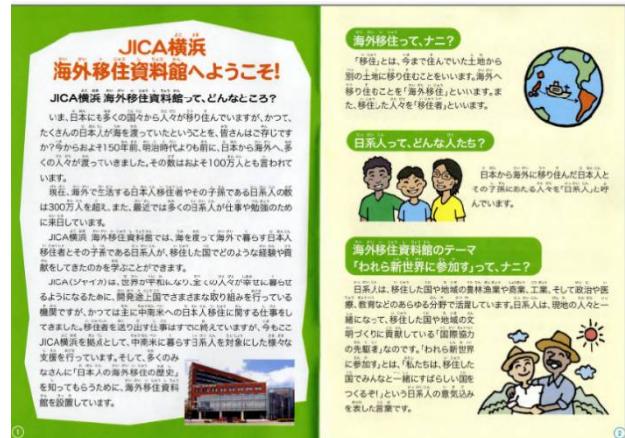
▲高野市市民音楽堂で演奏する「高野市市民音楽堂」



【資料9】紙芝居「海を渡った日本人」



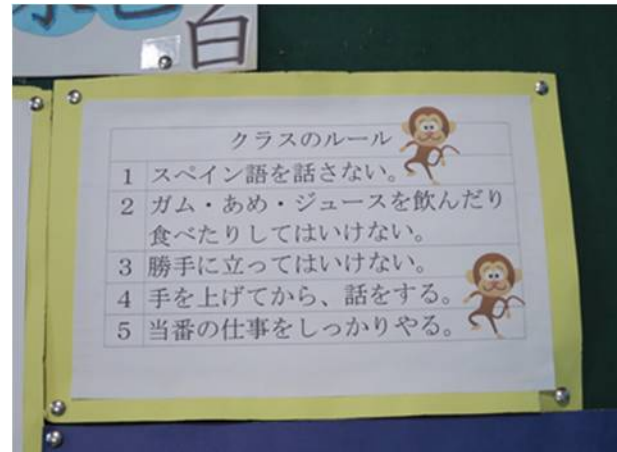
【資料10】資料館パスポート



【資料11】ラパス日本人会資料館の写真



【資料12】日本語学校のクラスのルール

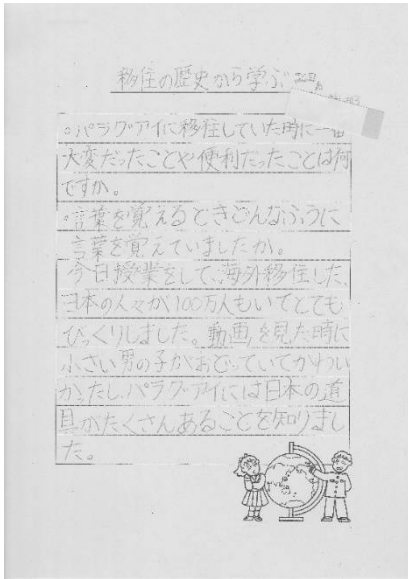


【資料13】パラグアイのスーパーマーケットの動画

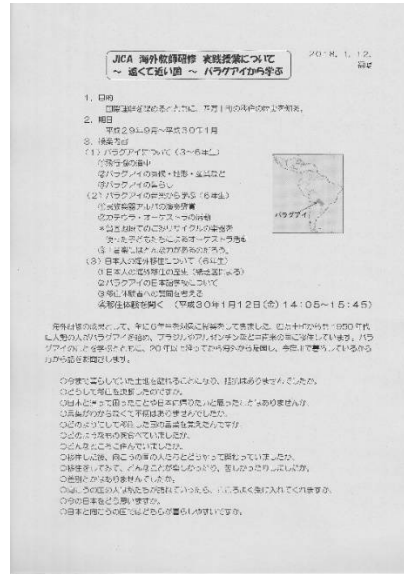




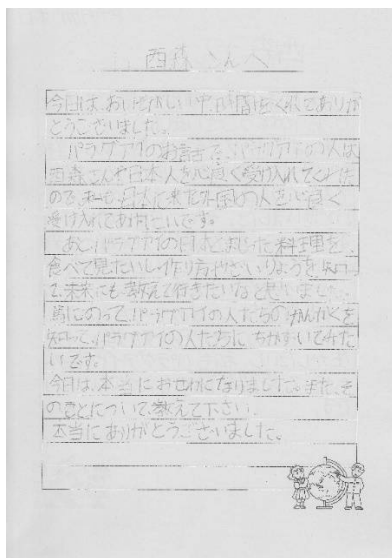
【資料14】ワークシート(質問を考える)



【資料15】質問内容



【資料16】ワークシート(移住体験者への手紙)



【資料17】アンケート

国際理解「パラグアイから学ぶ」の授業について

2018. 1. 12.

「パラグアイから学ぶ」の授業について、次の質問に答えてください。答えは、1～5の中から自分に一番あてはまると思うものを選んで、その番号に○をしてください。

5・・・とてもそう思う。 4・・・だいたいそう思う。 3・・・どちらともいえない。

2・・・あまりそう思わない。 1・・・まったくそう思わない。

1. 外国に興味を持つようになりましたか。

5-4-3-2-1

どんなことに興味を持つようになりましたか。それはどうしてですか。

--

2. 海外に行きたいと思いますか。

5-4-3-2-1

どこの国に行きたいと思いますか。それはどうしてですか。

--

3. パラグアイやブラジルなど海外に移民した人々のことがわかりましたか。

5-4-3-2-1

4. 四万十町から多くの方がパラグアイやブラジルなど中南米の国に移民したことがわかりましたか。

5-4-3-2-1

5. あなたは、これからこの授業を受けて学んだことをどのように生かしていきたいと思いますか。


6年 ( ) 番 名前 ( )

【参考資料】

海外移住資料館 <http://www.jomm.jp/>

カテウラ オーケストラ HP <http://www.landfillharmonicmovie.com/>

「遥かなる地球の裏側に夢を馳せた人々—南米パラグアイ在住移住者の声—」 山形大学出版会 2014年

「パラグアイに伝わる虹色のレース ニヤンドウティ」 岩谷みえエレナ著 誠文堂新光社 2015年